

ドキュメンタリー映画

うたごころ

2012

いのちは
生きる方向に向かう

～特別企画～ 「阪神・淡路大震災から20年を前に」

映画「うたごころ《2012年版》」上映会&監督講演会

日時：2014年12月13日(土) 13:30～16:00(開場13:00)

会場：とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」ホール

豊中市玉井町 1-1-1-501 (阪急宝塚線「豊中」駅前「エトレとよなか」5階)

定員：150人

入場料：一般(当日1,200円・前売1,000円) 学生(当日800円・前売700円)

※就学前のお子様の入場はご遠慮いただいております。(一時保育あり：1歳～小学3年生、お子様1人/300円 12月8日までに要申込)

※前売券は、とよなか男女共同参画推進センター及び とよなか国際交流センターにて12月12日(金) 17時まで販売。電話予約で当日精算も可能

お問合せ：とよなか国際交流センター TEL/06-6843-4343 / とよなか男女共同参画推進センター TEL/06-6844-9773 (両センター共9:00～17:00 水曜休)

※終了後、榎葉監督との交流会を行います。当日ご案内・受付いたします。

主催：とよなか国際交流センター、とよなか男女共同参画推進センター

後援：豊中市教育委員会、とよなか市民活動共同デスク、ESDとよなか連絡会議



東日本大震災の被災地・宮城県南三陸町を舞台に、津波で親類 5 人と自宅を失った女子高校生や家族、友人たちのひたむきに生きる姿を描き、全国で大きな反響を呼んでいるドキュメンタリー映画「うたごころ」シリーズ。日本社会が被災地を“他人事”にしていないかと静かに問うた第 1 作《2011年版》に続き、第 2 作《2012年版》では、“魂”の本質に迫ります。

現地に通い続けている榛葉 健監督は言います。「震災で生きる希望を無くした人、そして震災に限らず、さまざまな苦難を抱える人たちに、自ら《生きる力》をつかみ取ってもらうために、この映画がある」と。

被災した人々の“想い”を見せ物にせず、ありのまま伝えることで、地元の方々、そして全国から支持されている「うたごころ」。初めて観る方にもご理解頂けるよう、《2011年版》の要素を盛り込みながら、新たな心の地平をお届けします。

Story

宮城県三陸地方にある小さな町。
一帯が津波に流された中、
ひたむきに生きる女子高校生がいた。
彼女は、親類 5 人と自宅を失った。

日本の片隅で、ささやかな幸せを願って生きてきた。

「次、何かあったら、自分の命を投げ打ってでも、
父ちゃん、母ちゃんを助ける…」



少女が大切にしていたのが「合唱」。
「歌は、みんなをつなげてくれるから…」
大阪の合唱グループとの友情。
次第に明らかになる、少女の生い立ち。
パズルのような家族関係が、
苦難を経て、更に強く結ばれていく。
やがて来る卒業、新たな人生の選択…。

人間の強さと弱さ。
それでも生きる希望を忘れない少女たち。
歌声に込めた“祈り”が、人々の“心”を動かす日を信じて…。



【監督】榛葉 健 (Takeshi Shiba) 1963年東京都生まれ
テレビ番組プロデューサー、ドキュメンタリー映画監督

1987年、在阪民放局入社。
社会派、歴史、自然、スポーツなど幅広くドキュメンタリー番組を制作し、日本テレビ技術協会賞、坂田記念ジャーナリズム賞など多数受賞。世界最高峰チョモランマの取材では、登山家が放置する大量のゴミを世界のテレビで初めて告発。また2年間かけて撮影した「幻想チョモランマ」は海外でも放送、高評価を得た。

1995年以降、阪神・淡路大震災関連のドキュメンタリー 15本を制作。
『with…若き女性美術作家の生涯』は、「日本賞・ユニセフ賞」「アジアテレビ賞」「ニューヨーク祭優秀賞」など受賞。世界的反響を受け、2001年日本のビデオドキュメンタリー番組として史上初めて映画化。現在も全国で上映の輪が広がっている。